（様式１）

令和８年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立竪川中学校
校長名	山﨑　二郎

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・全学年の全教科において、区及び全国の平均正答率を上回った。 ・全学年で英語の２観点について、全国平均正答率との差が＋5 ポイント以上を達成した。国語と数学についても、それに限りなく近い状況である。 ・課題であった第2・3学年の社会、理科は、同一集団の成長過程の経年比較で前年度を上回った。 ・全学年の英語は過去５年間、全国標準スコアを上回っており、安定した学力が身に付いている。	・第3学年の理科は A 層が0%だったため、B 層から A 層への底上げを目指す。 ・各教科の平均正答率を比較すると、全学年において社会と理科の平均正答率が低いため、平均正答率を向上させる。 ・第2・3学年の社会、理科のD・E層が約40%で、依然として高い数値であるため、D・E層の減少に努める。 ・第2学年の数学において、E 層が昨年度の0%から3．4%に増加したため、E 層を減少させる。 ・第3学年の国語、数学、理科の一部の領域において、区及び全国の平均正答率を下回ったため、平均正答率を上げる。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・全学年において、生活・学習習慣の3項目すべて全国の標準スコアを上回った。特に第１学年については3項目とも＋2ポイント以上だった。 ・学級の規範意識は、全学年で標準スコアが高く、学級風土が良好であることを示している。 ・全学年において自己認識の「成功体験と自信」では、全学年で全国の標準スコアを上回った。 ・第２学年では、学級環境の４項目すべて全国の標準スコアを上回った。特に「友だち・先生のささえ」「感動体験」の項目は＋2ポイント以上だった。	・第１・第３学年の自己認識にある「家族・友だち・先生のささえ」の項目につい全国の標準スコアを下回っている。特に、第3学年の「先生のささえ」の項目については、全国の標準スコアより－2ポイント以下だった。そのため、学級活動や教育相談などを通して、生徒一人一人との対話の機会を増やし、信頼関係の構築や支援体制の強化を図る。 ・第１学年は、自己認識の6項目において全国標準スコアを4項目下回った。また、第3学年は、自己認識と社会性の各項目において自己認識は7項目中6項目、社会性は5項目中4項目が全国標準スコアを下回った。そのため、自己肯定感を高める取組や、対話活動・協働学習を充実させることで、自他を尊重しながらよりよい人間関係を築く力を育成していく。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・家庭学習ノート（一日１ページ以上）の取組を行い、年間パーフェクト賞の表彰等で全学年80％以上の提出率を保っている。 ・漢字・計算・英文・地理コンテストに向けての家庭学習（家庭学習ノート）が定着し、合格に向けて学習意欲が高まっている。 ・全国学力調査の結果では国語、数学ともに平均正答率・正答数で全国平均を上回っている。 ・全国学力調査結果チャートではICTを活用した生活・学習状況や、生活・学習習慣で全国や東京都の平均を大きく上回っている。 ・全国学力調査結果チャートの教科を中心とした学力・学習状況の結において、英語の学力、学習状況、意識が特に高い。	・英検、漢検、数検の3つの検定で3級を取得する（トリプルスリー）生徒が例年２０名程度いる。今後も検定に挑戦する生徒をさらに増やしていくことを通じて生徒の学習意欲を高めていくことに努める。 ・校内研修の内容を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの充実に努める。 ・全国学力調査の無回答率が高い【思考・判断・表現】の観点における記述式の問題の回答率を高める。 ・全国学力調査結果チャートの教科を中心とした学力・学習状況の結果から、国語に関する意識の向上や学習活動の充実を図るための工夫を講じていく。

2　本年度の学力向上に関する主な取組

（1）毎日の授業を大切にし、授業のねらいの明確化と振り返り学習の徹底を図る。また、研修を充実させ授業力向上に努める。

・毎日の管理職の授業観察を通して、教室環境の整備や授業規律の徹底を図る。
・年3回の校内研修で「指導の個別化」と「学習の個性化」に焦点を当て、自由進度型授業など個々の生徒に応じて異なる学習方法で学習を進める。
・研究授業や研究討議を実施し、年2回の授業互見習慣で OJT を活性化させ、教員の授業力向上を図る。
・「学習ふりかえり期間」に、学習状況調査の正答率が 50%未満の問題を中心に過去問や練習問題など年間指導計画に位置づけ振り返り学習を行う。

（2）自己肯定感を高める取組を特別活動や部活動で実践し、その活動を通して粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる。

・年 2 回の i-check の結果を分析し、社会性や自己肯定感、学習習慣・意欲を上げるための取組を学級・学年での行事や部活動などの諸活動に活かす。
・年4回の学習コンテスト（漢字・計算・英文・地理）を通して学習習慣を身に付けさせることで、学習意欲と自己肯定感の向上を図る。
・授業内での協働的な学びにおけるアウトプットの徹底と発信力の向上を図り、自己肯定感の向上につなげる。
・試験前の質問教室や夏季学習教室などの補習の取組を、進路指導部を中心に計画的に実施して、粘り強く学習に取り組む姿勢を育てる。

（3）主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、家庭学習の必要性や重要性についての理解を深め、学習習慣の定着を図る。

・家庭学習ノート（一日１ページ以上）の取組を行い、毎日欠かさず家庭学習ノートを提出した生徒には３年間パーフェクト賞や年間パーフェクト賞を表彰して、家庭学習の定着を図る。
・単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルで設けることで、テストの範囲を家庭学習と連動させる。
・学習コンテスト前は、出題される問題を繰り返し学習させることで学習習慣を身に付けさせる。
・授業の中で ICT を効果的に活用するとともに、「キュビナ」や「ミライシード」「ふりかえりシート」などの学習支援アプリを活用しながら、主体的に学習に取り組む態度を養い、学力の定着を図る。
・英検・漢検・数検の各３級以上の取得を目指し、合格した生徒にはトリプルスリー賞として表彰する。

3　「令和９年度 墨田区学習状況調査」の目標

・全観点の平均正答率を最低でも全国以上にし、さらに＋5ポイント以上の教科を増やす。
・学習振り返り期間を意識させ、同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。
・個別最適な学びを進め、全教科の DE 層を減らすとともに B 層以上の人数を増やす指導を行う。
・授業の中での協働的な学びの重視とアウトプットを徹底し、社会、理科の学力向上を目指す。